

## 令和 6 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (2) (3) (5)

申請組織 生活科学部

申請組織長 役職名生活科学部長 氏名 藏澄 美仁

統括責任者 役職名生活科学部 准教授 氏名 井澤 幸

課題名 産学官・産学福連携によるエシカル製品開発、及び SDGs とデザインに関わる一連の活動

|      | 役 割  | 氏 名    | 所属・役職名                    | 役割分担              |
|------|------|--------|---------------------------|-------------------|
| 事業組織 | 統括責任 | 井澤 幸   | 生活科学部・准教授                 | 事業の統括と実施（産学福連携部分） |
|      |      | 村上 心   | 生活科学部・教授                  | 事業の統括と実施（産学官連携部分） |
|      |      | 原田 さとみ | NPO 法人フェアトレード名古屋ネットワーク前代表 | 事業協力              |

## 1. 事業開始の背景・経緯や目的等（200 字～300 字程度で記述）

本事業の目的は、産学官および産学福の連携によるエシカル（アップサイクル・フェアトレード）製品の開発、及び開発製品の周知や販売、エシカルや SDGs にかかわる啓発活動を行うことで本学科の特色であるデザイン力とモノづくりを通して、社会課題に主体的に関わる教育を実践するものである。

本事業は 3 本の柱で構成されている。①行政や海外と連携し、製品開発や啓発活動を行う取り組み（村上担当）、②福祉施設（就労支援事業者）と連携するもの（井澤担当）、③行政・企業と連携し、住み続けられるまちを目指し、歴史的建築を再評価する活動である（井澤・村上担当）。いずれも継続事業であり、それにより事業の質と事業効果を向上させている。

## 2. 事業方法（特色・独創性）等（300 字程度で記述）

・「フェアトレードファッションショー」「SDGs AICHI EXPO 2024 in Aichi Sky Expo」は行政も深く関わる事業であり、多数の来場者が見込まれ、本学の宣伝効果も大きい。また、部活や総合学科の取り組みとして高校生の出展も多く、高校生への波及効果も大きい。

・独自に開発したフェアトレード製品は、発展途上国の支援に繋がっている。また、製品の制作を障害者が担うことで就労支援に繋がっている。加えて、製品価値向上を狙い、製品の展示什器のデザイン提案を行う点も特色である。

・事業自体の継続性をテーマの一つとしており、生活環境デザイン学科の 1～3 年生をサポートメンバーとして登録し、参加学生の輪を広げる体制をとっている。

・③の事業については、他大学の学生と協働で行う予定であり、学生同士の交流や切磋琢磨しながら、学びを深めることができた。

### 3. 事業の成果（600字～800字程度で記述）

#### 1.行政・企業連携による製品開発と啓発活動

①久屋大通りパーク芝生広場で開催された、「世界フェアトレード・デイ・なごや」へ、台湾・台中のフェアトレード無農薬コーヒーブース内装をデザイン/制作し、フェアトレード・コーヒー販売を行った（2024年5月）。

②沖縄県那覇市琉球新報本社にて、「沖縄における建築緑化の可能性」シンポジウムを、椋山女学園大学村上研究室が琉球大学入江研究室と共同主催し、株式会社日比谷花壇、株式会社国建などの実務側からの発表を踏まえて、熱帯エリアでの緑化の可能性と課題を整理した（2025年3月）。

#### 2.福祉施設と連携するもの

①「オアシス 21 日曜アトリエ」アップサイクルマルシェに ulula(井澤研究室を主としたアップサイクルブランド)として参加し、スモック・あずま袋・アクセサリーの販売とワークショップを行った。両日合わせて 20 名程度の WS 参加者があった。

②「SDGs AICHI EXPO 2024 in Aichi Sky Expo」に出展し、アップサイクルによるスモックを使ったファッションショー、ulula の活動を紹介する展示を行った。また、2023 年度に制作した屋台に合わせた展示台等の制作を行い、より統一したディスプレイとすることが可能となった。

③「森のようちえん おさんぽや なないろ」より発注を受け、園児用のスモック 26 デザイン 80 着のスモックを納品した。色選びは使用する子どもたちが自分で選ぶ WS を開催した（2024 年 4-9 月）

#### 3.行政・企業連携による歴史的建築を再評価する活動

半田市において、建築公開イベント「はんだ建築まつり」を実施した（2024 年 9-10 月）。愛知県の建築学を専攻する 8 大学が参加し、椋山女学園大学は事務局及び公開建築 16 施設のうち 4 施設を担当した。また、建築保存やまちづくりの専門家を県外から招き、3 プログラムの講演会を開催した。公開建築と講演会を含め、延べ 700 人を超える来場者があった。半田市民には、改めてまちの魅力と建築公開イベントの可能性を再認識する機会となり、学生には歴史的建築を利活用する課題を学ぶ機会を提供できた。

### 4. キーワード（本事業のキーワードを 1 つ以上 8 つ以内で記載）

|          |        |       |        |
|----------|--------|-------|--------|
| ①産学福連携   | ②産学官連携 | ③エシカル | ④障害者雇用 |
| ⑤アップサイクル | ⑥建築緑化  | ⑦建築公開 | ⑧まちづくり |

### 5. 事業の達成状況及び今後の課題（事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。）

1.については継続して実施する予定である。特に建築緑化については、2024 年度から始まった事業であり、今後の発展が期待できる。

2.については、これまでの活動を継続しつつ、今後は新商品の開発に力をいれたい。2025 年 8 月には愛知万博 20 周年記念事業「地球を愛する学園祭」への出店を予定しており、新企画での集客、アップサイクル商品の啓発につなげたい。また、ulula の活動だけでなく、名古屋市・児童発達支援センター「さわらび園」、星が丘テラス、東山スカイタワーと連携して、「名古屋市発達障害啓発プロジェクト 2025」への参加を予定しており、デザインの力で発達障害の啓発の支援を行っていききたい。

3.については、建築公開イベントの継続を予定している。2024 年度は初めての試みであったため、広報が十分行えなかった。また、点在する公開建築をまわりながら、半田のまちを楽しめる提案が不十分であった。今年度は広報や散策マップの作成などにより、来場者の満足度をあげる工夫を検討したい。